

平良港

宮古島市港湾課

〒906-0013 宮古島市平良字下里108-11

平良港ターミナルビル3階

☎0980-72-4876



1. 概況

〈沿革と地勢〉

平良港は、古くは漲水港と呼ばれ沖縄本島との航路は遠く明徳元年(1390年)の頃から開かれており、宮古唯一の良港として親しまれ利用されてきた。

近代港湾の歴史は、大正2年公有水面埋立が起工され、突堤、荷揚場、道路等が整備され50トン程度のはしけの利用が可能になったのが始まりである。その後、施設の整備が進められ昭和47年の沖縄の本土復帰と共に宮古圏の拠点港として、宮古島市(旧平良市)を管理者とする重要港湾に指定され、港湾施設の整備事業が進められている。

平良港は、北東から南西へ弓状に連なる琉球弧のほぼ中間に位置する宮古諸島の宮古島(沖縄本島から南西約326km、石垣島から東北東約156km)にある。諸島圏域は人口約55,000人で、八つの島(宮古島・伊良部島・多良間島・池間島・栗間島・大神島・水納島・下地島)からなっており、宮古島が産業、交通の中心をなしている。

〈整備の状況〉

平良港の港湾計画は、昭和49年6月の港湾審議会第63回計画部会を経て策定され、直近では平成20年11月の交通政策審議会第33回港湾分科会の議を経て新たな港湾計画改訂が策定された。その後、漲水地区複合一貫輸送ターミナル改良事業に着手し、平成29年12月に全体岸壁延長440mのうち耐震岸壁(220m)を含めた295mが暫定供用されている。現在、残り145mの岸壁整備を行っており、令和6年度に11万トン級のクルーズ船に対応した岸壁の完成を予定している。

また、令和2年3月には漲水地区北防波堤外地区に14万トン級対応クルーズバースが完成したところであるが、今後大型化するクルーズ船に対応するため、引き続き22万トン級クルーズ船に対応した岸壁改良工事を行っている。平成29年7月には、国土交通省より国際クルーズ拠点形成港湾の指定を受け、官民連携による事業が動き出しているが、現在、受入施設の隣接地が作業船だまりとして利用されており、景観上・安全上の観点からも機能移転の必要性があることから、西仲船だまりを下崎地区へ移設する計画となっている。

〈将来計画〉

現在、平良港では平成20年11月に策定した平良港港湾計画改訂の目標年次を迎えていることから、平良港への新たな要請等に対応した港湾計画の改訂作業を令和3年度より着手

する予定である。